

令和元年度 第2回 向日市国民健康保険事業の運営に関する協議会会議録

- 1 日 時 令和2年2月3日（月） 午後2時～2時45分
- 2 場 所 向日市役所 大会議室
- 3 出席委員 楠本会長、香本副会長、河合委員、平田委員、梅地委員、石井委員、湯山委員、山口委員、中川委員、大島委員、山本（哲）委員、山本（加）委員、森委員、福井委員（14名）
- 4 欠席委員 堀委員（1名）
- 5 傍聴者 3名
- 6 議 題 (1) 向日市国民健康保険条例の一部改正について
- 7 報告事項 (1) 令和2年度納付金等の京都府本算定結果について
(2) 医療、健診結果の実態と健康づくりへの取り組みについて
- 8 その他

議事（要約）

- 1 市長あいさつ
- 2 諮問
- 3 会議録署名委員の指名
- 4 議題

(1) 向日市国民健康保険条例の一部改正について（諮問）

<事務局からの説明>

- ・国民健康保険法施行令の一部改正に伴い、以下の内容を改正する。
保険料の基礎賦課分の限度額を 61万円→63万円（諮問事項）
保険料の介護納付金分の限度額を 16万円→17万円（諮問事項）
5割軽減基準額 33万円＋（28万円→28.5万円）×被保険者数
2割軽減基準額 33万円＋（51万円→52万円）×被保険者数
- ・試算では賦課限度額の改正により、限度額超過世帯は6世帯減。
- ・試算では軽減基準の改正により、5割軽減世帯では44世帯、2割軽減世帯では45世帯増加となる。

<委員からの意見>

- ・今回の改正により収入は増えるのですか。
- ・1.5%ルールについて、向日市の状況どうか。
- ・諮問事項については異議なし

6 報告事項

(1) 令和2年度納付金等の京都府本算定結果について

<事務局からの説明>

- ・京都府全体の歳出について、医療費を1,737億円と見込み、一人当たり医療費は横ばい、被保険者数が3.1%減により、前年度と比較し48億円減少となる。
- ・歳入について、前期高齢者交付金の概算交付額が減少するが、精算額が大幅な減少と

なり、差し引き結果が22億円の増加となる。納付金は652億円となり、被保険者一人当たり124,196円、3.6%の減となる。

- ・向日市の納付金は13.6億円、前年度より1億9,000万円の減となる。被保険者一人当たり131,214円、6.3%の減となる。
- ・前期高齢者交付金の精算が大きく減少し、納付金の減少要因となっている。
- ・本市の標準保険料率算定結果は、医療分の所得割8.46%、均等割29,558円、平等割19,916円、後期高齢者支援金分の所得割2.85%、均等割9,638円、平等割6,494円、介護分の所得割2.93%、均等割12,016円、平等割6,025円であった。
- ・令和2年度本市の保険料は、一人当たり保険料は、軽減前で約121,000円となるが、予算編成と併せて算定する中で、標準保険料より4,000円低い171,000円の設定ができる見込みである。
- ・標準保険料率と現行の市の保険料率は各区分で差異があるため、段階的に合わせていき、令和2年度はプラスの区分は引き上げ、マイナスの区分は引き下げる方向で調整する。

<委員からの意見>

- ・京都府本算定結果の一人当たり医療費は横ばいであるが、医療費は増加しているのではないのか。
- ・今後の医療費の見通しは分かるものか。

(2) 医療、健康診断の実態と健康づくりへの取り組みについて

<事務局からの説明>

- ・平成30年度の医療費のうち、予防可能な生活習慣病に係る医療費は、前年度より減少している。
- ・特定健診受診者と未受診者では、生活習慣病治療費に差がある。
- ・特定健診の結果、メタボ該当者、予備群等は京都府や全国平均よりも向日市が高い。
- ・向日市の課題として、慢性腎不全、糖尿病の医療費割合が高い、メタボ、脂質異常症が多い。
- ・健康課題への取り組みとして、特定健診未受診者への受診勧奨、特定保健指導、糖尿病性腎症重症化予防、高血圧重症化予防を実施している。
- ・今後も継続的に取り組みを続けていきたい。

<委員からの意見>

- ・特定保健指導率は、市の取組結果か、対象者の自主的な取組みか。

7 その他

<委員からの意見>

- ・保険料未納者への対応はどのようにされているのか。